

同志社

東京
ジャーナル

同志社
東京校友会

DOSHISHA TOKYO
JOURNAL
2013.JUL
NO.92

NO.92



【今号の記事】

- ・2013同志社東京春の集いレポート P2
- ・片桐家同志社五代記／今出川四季 P6
- ・交友訪問(佐々木實穂子氏) P7
- ・日本300名山(同志社スポーツ) P8
- ・NHK大河ドラマ 八重の桜 P9
- ・年次回&サークル活動 P10
- ・キャンパスフェスタ／書評／すみれ亭 P11
- ・お知らせ／編集後記／次号案内 P12



同志社大学提供

2013 同志社東京春の集いレポート



盛大に開催された「春の集い」 あいさつする並河実行委員長

同志社東京校友会主催の恒例のイベント「春の集い」が5月19日午後、都内中央区のロイヤルパークホテルで開催された。今年のテーマは「輝ける未来へ羽ばたけ同志社精神」ハンサムカップル

「襄と八重」。
15回目を迎えた今年の集いは昭和44年卒業生が主体となり、実行委員会を組織、昭和54年と平成元年の卒業生が副委員長や協力委員という形で実行委員会に加わり、

企画・運営された。

週始めの当日の予報は「雨」。参加者数が懸念されていた。しかし当日は予報とは真逆の晴れ。550名が参加した。同志社ファミリの結束の強さか。

受付開始時間の正午を待ち切れず会場に現れる人もチラホラ。正午を15分も過ぎると、受付前にはクラスメイトと待ち合わせの参加者があちこちに見受けられた。再会が待ち遠しい。旧友を見つけてるや即座に「おー、久しぶり」と互いに肩を叩き合い再会を喜ぶシーンも。

メイン会場ロイヤルホテルの外では、当日の講師である作家の福本武久氏の著書販売コーナー、八重をPRする福島県のコーナーが設けられ、さながら「八重の集い」の感。15回の集いの歴史で初の地方自治体とのコラボになった。

午後1時、式典の幕開けは東京クロージャークラブによ

るカレッジソング。続いて松井愛美牧師の祈祷と讃美歌312番「いつくしみふかき」の斉唱、例年通りおごやかな式典だ。



東京クロージャークラブによるカレッジソングの熱唱

いよいよ開会宣言する並

河和之実行委員長が登壇。今年のテーマと開催意義について並河委員長は「新島襄と八重は明治維新という激動の時代を不屈の精神で生き抜き、互いに人格を尊重しながら同志社建学の道を開いた。まさにハンサムカップルにふさわしい集いにしたい」とあいさつ。また主催者として同志社東京校友会の児玉正之会長は「今日は同志社人として改めて新島精神を確認する日にしたい」と

述べた。

来賓として学校法人同志社の水谷誠理事長、同志社大学の村田晃嗣学長、同志社校友会からは出張中の井上礼之会長の代理、木村昌平副会長が登壇。

水谷理事長は「新島八重は激動の時代を生きた稀な女性。一方新島襄は、人は良心的に生きるべきである、とキリスト教的な物の見方で良心を唱えた。我々は様々な価値尺度で生きていることを忘れてはいけない」と、新島襄の精神を引用して人間としての生き方を説いた。



水谷理事長

村田学長は「現在同志社は大きな転機を迎えている。6700人の学生が京田辺から今出川校地に戻ってきたが、質の高いキャンパスライ

フが求められる。キャンパスは2つでも同志社精神はひとつということ忘れてはいけない。より質的に向上した大学をめざす」との抱負を語った。

村田学長によると、大学ではいま密かにいくつかの新しい企画を考えており、発表の時期になれば校友の皆さんにもご協力をお願いしたいと要請した。

木村副会長も自ら訪問した福島原発の事故現場の現

状を説明しながら、校友の結束を訴えた。



村田学長

式典のあとは第二部の特別講演会。作家の福本武久氏が会津鶴ヶ城の歴史、会津魂、



福本武久氏

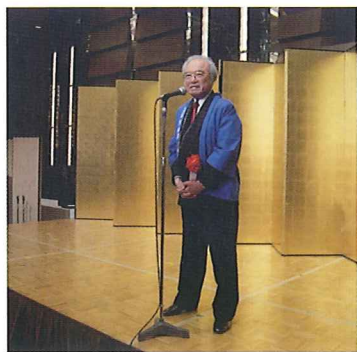
八重のエピソードなどを織り交ぜながら「新島襄と八重」同士の絆」をテーマに持ち時間を越えての熱弁だった。

同志社大学OBでラグビー元日本代表として活躍した大八木淳史氏(現芦屋学園中学校・高校学長)の講演テーマは「同志社ラグビーを語る」。京都市立伏見工業高校時代の恩師山口良治先生との出会いなどをユーモアたっぷりに披露、会場内は大爆笑。



大八木淳史氏

第3部の懇親会では来賓、校友会各支部長らによる鏡開きのあと、大谷實同志社総長による乾杯の音頭で宴会がスタート。



大谷総長



ふくしま八重隊によるパフォーマンス

福島県から上京の「ふくしま八重隊」によるパーフォーマンス、お楽しみ抽選会、応援団がカレッジソングと同志社チアを演じ、同志社魂を鼓舞した。

最後に藤井英哉実行副委員長(昭和54・商)が閉会の挨拶で宴を締めくくり、参加者は名残りを惜しみつつ来年の再会を誓った。

「2014春の集い」は昭和45年卒業生主体の企画・運営になる。

「春の集い」を振り返って

実行委員長 並河和之

「2013同志社東京 春の集い」を無事終えることができたことを報告させていただきます。お蔭様で会場溢れんばかりの五百名を超える校友の皆様にご参加いただき、例年以上の盛り上がりを見せました。

思えば昨年末実行委員会を結成した時点では、まさに海図もなく荒海に乗り出す小船の気持ちでしたが、東京校友会幹事皆様の灯台のような温かい誘導で、進路を大きく外れることなく、なんとか航海を終えることができました。今年会、いっ今年会として平成元年会の仲間と一緒に大いに助けられました。彼らの結束力とチームワークが春の集いを成功に導いた最大の要因と言っても過言ではありません。振り返ると決して順調な船出をした訳ではありません。3月初めに8千名近い校友の皆様が案内状を発送しましたが、4月後半までは参加申込数が伸びず、危機感を募らせたこともあり、ところが5月の連休前後から申し込み数が急増し、そのまま集い当日まで増勢は衰えませんでした。この間、実行委員会としても様々な動員策を講じましたが、何よりも心強かった

のは各年次会代表の強力なご支援でした。並行して、もう一つの大きな収入の柱である広告の獲得にも注力しました。従来の企業様を始め、担当メンバーの人脈を頼りに新規クライアント企業様の発掘に東奔西走した結果、予算を上回る広告を受注し、広告が掲載されるガイドブックの編集長が嬉しい悲鳴をあげました。また参加者の増加に伴い、不足するお土産品に対応すべく、献品の増量に快く応じて戴いた企業様には深く感謝いたします。

企画面では大河ドラマ「八重の桜」の放映というフォローの風が吹く中、福本武久氏に新島八重についてのご講演をしていただき、大八木淳史氏には同志社ラグビーの復活について語っていただきました。また新しい試みとして、福島県と群馬県安中市とのコラボレーションを両自治体の観光物産展という形で実現しました。この他、「ふくしま八重隊」や応援団の演舞、また抽選会等で盛り上がりしました。プログラムの密度が濃い割には、時間が足りないというご指摘も頂きました。

末尾ながら、今回の春の集いに参加していただいた校友や母校関係者の皆様、さらには関連企業の皆様には数多くのご支援をいただきました。改めて厚く御礼を申し上げます。

ご協力ありがとうございました。各実行グループからの報告

事務作業グループ

川崎亮生(昭44・工)

今年の「春の集い」の出席者総数は550名に達し決算も黒字となりました。

事務Gの作業を振り返ると、3月初旬に会員へ案内状を送付するため2月初旬より準備に追われ無事送付した後は動員Gと連携し進捗管理に注目しながら適時案内状を再送、5月連休には出席者数は500名に達しやっと一息。

この後は開催日の前々日から出席者名簿および名札の作成に追われました。この一連作業で気が付いたことは、前回の特に前日、当日の詳細な作業報告が大変参考になり、お陰さまで大きなミスもなく終えることができました。事務Gの皆様深く感謝すると共に東京校友会の益々のご発展を祈願します。

動員グループ

松田政博(昭和44・工)

昨年11月より春の集いの全体準備に入り、今年は前年よりさらに多くのご参加をいただくよう専従で活動するためこの動員グループが出来ました。実行委員長の全体日程に基づき当グループでも今後の細かい段取りを練りました。

久しぶりに会社の業務と同様で緊張をして作業に入りました。大きなポイントでは校友会名簿を元に案内状を郵送して振込者が日毎どのように増えるか？

その後の対応が大事でした。東京校友会に今まで一度も出席していない方々の名簿の発掘、新規案内状の送付、また今年44年にも未出席者への案内状の送付、それにメールや電話作戦でご出席の勧誘を進め、近年出席されていた方でまだ申し込みのない方への再度案内状の送付等の手を尽くした結果、お蔭様で当初予定の450名を約70名も増え、当日申込も30名あり、合計550名近くのご参加をいただきました。

校友会諸先輩と44年関係各位の皆さんからご協力をいただきました。厚く御礼申しあげます。

広告・献品グループ

近藤義彦(昭44・経)

今年の「春の集い」のガイドブックに対する広告掲載はすこぶる好調でした。お蔭様で企業広告28件、協賛・サークル広告26件、名刺広告80件と金額も目標を上回りました。改めて関係者に誌面を借りて御礼申し上げます。今回は高橋健治委員(昭44・経)と花村一郎委員(昭44・商)の2人が主に企業広告と献品を担当し、林郁也委員(昭44・商)と近藤義彦が主に協賛・サークル広告と名刺広告を担当しました。

東京校友会の幹事団の皆様、実行委員各位、企業の広告窓口、サークル・組織の担当者様、あと各個人個人が何かを宣伝すると云うこともさることながら、同

志社校友会の一大イベント開催を支援するのだという想いをお持ちだったとの印象です。献品いただいた各社の製品も、鏡開きや抽選、お土産に不可欠で、大いに楽しませていただきました。ありがとうございました。

会場グループ

藤田郁男(昭44・経)

ホテル会場グループの役割は、1. ホテルとの折衝 2. 物販・展示に関する手続 3. 当日の運営が3大役割です。どれも初めてのことはかりで、北濃代表幹事、早田さん、安永さん、並河実行委員長等に助けられながらどうにか無事終えることができたというのが実感です。

1. ホテルとの折衝では、1月31日に北濃さん、早田さんの紹介のもと、見積書の打ち合わせを行い、ほぼ例年通りの内容で進めました。

2. 物販・展示に関して、今回は福島県、安中市とのコラボ、福本先生の著書等が加わり、多くの出店がありました。出店名は、同志社エンタープライズ、八重さんクッキー(金屋氏)、福本先生の著書、福島県観光物産安中市観光物産 紫志の会、東映株式会社、新島襄映画化実行委員会、同志社大学パネル、長谷川豊彦氏 絵画パネル。

3. 当日の運営では、福島八重隊の演技が新企画として開催され好評でした。各関係方面のご協力ありがとうございました。



会計グループ

堀田寛太郎(昭44・商)

会計Gの主業務の一つである名簿作成については、3月5日に案内が発送され最初の参加申込は8日でした。しかし4月20日過ぎまでは参加数が伸び悩みました。月末から多数の申込があり最終では昨年を大幅に上回りました。

名簿作成でスムーズにいかなかった点は、振込用紙に卒年、学部の記載がないものが45名ほどあり、校友会の名簿でチェックし名簿にないものは電話で問い合わせ、電話記載のないものは手紙で照会しました。全員突き止めることができたが、年次別参加者数及び名札作成に支障をきたすので記入漏れを防ぐよう振込用紙に工夫が必要と感じました。又、名前が達筆で判断できない場合は電話で確認するなどの努力もしました。

当日受付については、短時間に来場者が殺到し皆さんにご迷惑をおかけしました。受付人数の増員とか受付方法の検討が必要と感じました。

編集グループ

古川隆彦(昭44・法)

ガイドブック(GB)の編集作業が本格化したのは1月から。編集グループ(早野芳雄さん、鶴飼悦子さん、古川)のメンバーが手分けして福本武久氏の「新島八重」関連の著作物からの転載許可手続き、国会図書館などへの写真・図版などの使用申請、同志社大学本部にも許可申請しました。特に並河和之実行委員長には福永氏との交渉で前面に立つてもらいました。ご苦勞様でした。

GBの内容は主に、挨拶、祝辞、転載、寄稿などの記事部分と広告に大別されます。特に顔写真の照合には気を使いました。広告にはさらに神経質にならざるを得ません。誤字・脱字、広告の掲載漏れ、先方の指定通り訂正されているか。広告・献品Gと連携しながら作業を進めました。

少しは生みの苦しみを感ぜましたが、発行後「立派なガイドブックでした」との声を聞いた時は本当に苦勞が報われたと感じました。



「春の集い」に参加して

鍋島和幸(昭37・文)

昭和37年に英文学科を卒業以来ずっと東京で生活しています。勿論同志社東京校友会の会員です。これまで東京三七会やESS東京OB会には出席していましたが「春の集い」への参加は今回が初めてです。

小説に取り上げた作家の福本武久氏の「八重さん」についてのお話、大学ラグビー3連覇の大八木淳史氏の「リーダーとチャレンジャー」のお話など、興味深く拝聴しました。

またチャアリーディングなど学生たちによるパフォーマンスも素晴らしく、あつという間の4時間半でした。東京校友会と「春の集い」実行委員会の皆様に大いに感謝します。

今回出席してまず驚いたのは500名以上という参加者の多さです。また京都から総長、学長を始め、来賓の方々と現役学生たちの来場があったことです。

そして新島八重をいち早く

芦刈浩(昭41・文)

卒業して48年、このたび「春

の集い」に初めて出席した私が関心のあったことは同志社の現状と課題、そして将来に向けての指針でした。新学長の村田晃嗣氏が挨拶の中でこれらの点を詳細に語られました。

学長は同志社の象徴である3つのクローバーの意味を説明されました。

1つ目のクローバーは同志社が京都に位置すること。つまり首都圏以外の価値観や文化的観点からものが考えられるということでした。

2つ目は同志社は私学であること。同志社は新島襄の明確な創立者の理念を持つて、138年間歩んできた学校で、

京都大学や京都府立大学とは違う理念と伝統を持つこと、3つ目がキリスト教の観点からもの

が考えられるということ、すなわち日本ではマイノリティの視点でものを考え、世界的に見ると普遍的価値観につながる扉を開くことができるということ。従ってマイノリティの視点と普遍的な価値観の両方を持つことができる。学長は同志社は京都、私学、キリスト教をキーワードとして未来に向かう学校であると訴え、とても共感しました。

朝井章夫(昭43・経)

550名が大集合。これがすべてが同志社の仲間、壮観でした。大谷総長、村田学長はじめとして、関係者のご挨拶にも母校発展への強い思いが感じられました。

特別講演では、福本武久さんの新島襄と八重のお話や、大八木淳史さんの同志社ラグビー復活への大胆な提案を、興味深く聞かせていただきました。

クローバークラブの合唱、応援団、チャアリーダーの若き溢れるパフォーマンスに酔いしれておりました。本当に素晴らしい集いでした。実行委員の皆様改めて感謝致します。

「春の集い」の興奮覚めやらぬうちにゼミの同窓会総勢6名で会津若松、喜多方、大内宿に出かけました。どこに行つて

も同志社から来たという大歓迎を受けたことを最後に付け加えさせていただきます。

河合利彦(平成元・法)

私が「春の集い」に参加したのは昨年(初夏の集い)からのことで、東京校友会の存在を知ったのも昨年初めてでした。東京に転勤して15年、関東でこれほど大規模に同窓会が開かれていたというのは非常に嬉しい驚きでした。

今年も引き続き参加させて頂きました。旧交を温める方、講演会に興味を持たれて参加される方、新たに交友範囲を広げられる方、参加動機・目的は人それぞれだと思います。

私の場合は、正に志を同じくする仲間が年齢を超えて集い、気持ちだけは学生時代に戻って、肩を組みながら「カレソン」を高らかに歌える場が東京で存在する事が嬉しく、そして幸せに思えるからです。しかも応援団の諸君も参加、この上ない贅沢ですね。

諸先輩からは、若手扱いされる平成卒業年次ですが、実は社会ではどっぷり中間層を担っていますので、なかなか多忙で参加しにくいのもかもしれません。しかしこのような絆を大事にしていくことが自らの財産になりうると思います。

一昨々までの私のようにこの催しを認知していない関東在住者は多数いると思います。年次会などを通じて周知できればと思います。

「2014春の集い」ぜひ成功へ

同志社45東京クラブ代表幹事

香月宏三(昭45・商)

長期間の準備に献身され、盛大で有意義な楽しい「集い」を企画・運営された昭和44年・昭和54年・平成元年卒の実行委員会メンバーの皆様、心から敬意を表します。有難うございました。私自身は今回で7回目の参加となります。

毎回参加する度に想うことがありました。どの大学も同窓会・懇親会等の集まりを開催しています。同志社の「集い」は他大学とどう違うのか。毎年の行事内容に参加者は満足しているだろうか。今回(第15回)の「春の集い」に答えがありました。大成功の「集い」だったと感謝申し上げます。一年後には、私共昭和45年卒が役目を引き継ぎます。早期に組織を固め、「行動と協働」をモットーに第16回「春の集い」も成功させたく存じます。今年度実行委員会の団結力・企画力・行動力を来年度も引き継

げたら幸甚です。



連続企画 片桐家同志社五代記(六)

今回は、前回迄に何度か登場する清治の妻亀代の話しである。

亀代は、一八六二(文久二年)仙台藩士馬寮士族四竈信直の三女として花京院通に生まれる。信直は、当時馬の産地である岩手県の水沢には良く出入りが有った事から片桐家と縁があったようだ。

当時の習慣だったようだが、十四歳で清治の見習い嫁として迎えられ、半農半土の家庭で慣れぬ農作業をする生活が続いたそうである。十七歳でやっと正妻の座を獲得し、清治が京都へ発つ五日後に十九歳で長女を生む。

しかし、山崎為徳の推薦で清治が同志社に学ぶ五年間、長女の養育はもとより両親に任せ、内職や野菜を売り歩くなど大変苦労したようだ。

一八八五(明治十八)年清治が帰郷するや、直ちに東北地方に組合教会の伝道開始し、一八八八(明治二十一年)清治が東華学校の幹事兼教

師に任命されるや、生まれ故郷の仙台に戻り、キリスト教的教育に従事する傍ら教会事業にも参加する。

亀代は、一九一四(大正三年)迄、六男五女(娘二人は幼くして四男は早逝)を授かるが、その他夫の義姉の娘二人を片桐家の娘として神戸女学院へ勉強に出し、嫁にやる迄心を尽くして養育している。

亀代は、自分の子供を含め十三人を良く育てたと思うが、貧困の中でも、何方にでもあるだけ惜しみなく与えご馳走をする人だったと長女の想い出の中で語られている。

また娘の一寸した善行でも大いに褒めて、子弟の教育には心を尽くしたようである。

清治は東華学校が廃校になった後も、福島、涌谷、仙台と生涯牧師を貫き得たのも、亀代の信仰を持った愛の人としての支えが有ったからだろう。

亀代の話しを書いていると、同じ東北に生まれた山本

八重さんと何となく重なって来る。

亀代は、八重さんより一六年遅く生まれているが、仙台藩士の娘として生まれ、武家の娘としての教育を受けて育った事は、八重さんと同じ環境だったと思われる。

維新を迎え、牧師となった清治を支えて儉しく生きたのも、幼い時の厳しい教育が有ったからだと思われるが、幼くして天然痘を患い、顔がアバタになってしまった事、その為に養女に出され、苦勞した事等この時代の女性の生き様を思わざるを得ない。

片桐陽(昭42・工)



今出川四季

「一九六二年」 保阪正康

一九六二年(昭和二十七年)のころと思うが、新町の学生会館の建設も進んでいる折り、その学館の管理運営権を学生側に任せるべきだとの運動が起った。当時、私は文化団体連盟の情宣部長だったために、この運動に関わった。

思った。

その思い出のひとつを書き残しておきたいのだが、文連では傘下の三十近くの団体の会員を集めて明德館21教室で集会を開いた。管理運営は学生に任せて、大学側は口を挟むなという呼びかけである(つけ加えておくが、大学側は火災の心配などがあり、大学が責任を持つのは当然との考え。確かにそのとおりだ)。

この集会で、私は学生の自治を尊重せよと演説したが、さらに「わが同志社の文化活動は先輩の遺産を守りつつ、新たに発展していて今や日本の文化芸術のトップクラスにある」と声を張り上げた。自分でも大仰かな、とは思った。

案の定というべきか、参加者の中に苦笑い、いや失笑ともいべき波が広がった。私はすっかりとり乱してしまった。少なくとも私には、自分たちの芸術活動は一流との自信があったからだ。演劇研究会で演出を担当し、ときに創作劇を書いていた。自分たちの芝居は学生演劇としてはレベルも高く、相応の劇評が一般紙に掲載されることもあった。壇上で演説する私は、そのプライドを一気に失ってしまった。あの失笑の波で、自分たちの芸術活動に天狗になっていたのではなにか、と自省することにもなった。

学館闘争のその後の推移は知らないが、今も新町の学館に入ると、このときの自省や自戒を思い出す。

校友訪問

佐々木實穂子^{さん}
昭和41年 文学部



P12に
展覧会のお知らせが
ございます

主婦業のかたわら絵筆をとる佐々木實穂子さん（昭和41・文）がこのほど第79回旺玄展で最高の賞「文部科学大臣賞」を受賞した。同展は、美術団体「旺玄会」が1932年の設立当時から東京都美術館（旧・東京府美術館）を会場に開催してきた全国規模の公募展である。

佐々木さんは今年「古希」を迎える。ハイティーン頃から絵の世界に興味があったが、実際に活動し始めたのは、主婦になってからだ。

「娘が幼稚園のとき、絵の好きなお母さまたちが集い、絵画の先生をお招きしてサークルができました。それ以来、絵を描きたい一心でやってきました」

アクリルやテンペラなどを取り入れた「ミクストメディア」の手法で表現世界を広げている。制作場所は自宅の居間。いわゆるアトリエといった特別な空間ではない。作品を入れる額も、ベニヤ板の下地作り（カンバスは使わないのだそう）も「主婦が、やれるところでやっている。生活環境の中で描いているような感じです」。

佐々木さんはこれまで女性像をおもに描いてきたが、この数年、旺玄会への出品を機に、「遠い日」という主題で、少女の姿を借りて自分自身の過去を内観する作品を生み出している。

今回の受賞作（signal）は、淡い茶色やベージュを基調に、二人の少女が電車の信号機を挟んで椅子に座っているという構図である。モデ

ルは、佐々木さんの孫娘だ。「継承」との思いを込めて線路を入れた。こうしたモチーフに決めたのは、東日本大震災で義理の弟が被災したことが大きな理由だと語る。

「あれから随分復興してきましたとは言われていますが、被災地にとつては、2年経った今も、その大変さは変わりないんです。そこにいる子どもたちが抱えている不安や将来への道筋が幸せなものへつながっていつてほしい、という願いを込めました。題名の（signal）から、評論してくださる先生も、そういう世界を想像されるようです」

旺玄会で初出品し、「新人賞」を受けたのは63歳のとき。ほかにも千葉県展「県展賞」など、還暦を過ぎてから、方々で評価されはじめた。だが佐々木さんは、ここにくるまで受賞を目標に取り組んできたわけではなかった。

「主婦として出来る範囲で少しずつ積み重ねて」きた、結果の表れだと強調する。

佐々木さんの口からは、何

度も「自然な」とか「自然に」という言葉が出てくる。それは、作品世界にも滲み出ていると思うし、自身の生き方のスタイルでもあろう。

「何に取りくむにしても負って何とかしてやろう！という力んだモチベーションではなくて、私自身の自然な気持ち、心にこみ上げてきたものを無理せずに広げていく感性を、同志社で培ってきたように思います。中・高・大と同志社で学んで、さまざまな分野で活躍する友人にも恵まれました。そうした友人たちのおかげで、自分の立ち位置も冷静に判断できるので、落ち着いた対応ができる気がします」

今回の受賞のように、作品が展覧会で発表されたり、個展を開いたりすると、校友会の同期の人たちが大勢来場すると佐々木さんは笑う。

「絵の仲間は、ある意味競争相手でもあるから微妙ですが、大学時代の友人は心から応援してくださいます。とっても励みになるんです」

竹下香澄（平17年・神）

家族葬から社葬・お別れの会まで、 信頼の葬祭ブランド「公益社」にお任せください。



KOEKISHA

株式会社 公益社 ユニバーサル 葬祭・葬儀・火葬・火葬・火葬
東京・大阪・名古屋・神戸・横浜・福岡・札幌・仙台・仙台

まずはお電話を。公益社葬儀相談センター

さよならのこころ

0120-347-556

(24時間 365日受付)

http://www.koekisha.co.jp

対応地域

■首都圏
(東京・神奈川・千葉・埼玉)

■近畿圏 21会館
(大阪・兵庫・奈良)

首都圏ネットワーク(自社会館・営業所)

- 公益社 東京本社
- 公益社 用賀会館
- 公益社 明大前会館
- 公益社 田園調布会館
- 公益社 雪谷会館
- 公益社 社会館 たまプラーザ
- 青山ご葬儀相談室
- 日吉営業所
- 鶴見営業所



公益社
用賀会館

操ホールディングス(株)代表取締役会長 はりしま まさのぶ
播島 幹長 (昭和33年 経済学部卒業)

※上記を中心に300箇所以上の葬儀場がご利用になれます。



北濃登美男(昭41・法)

生活を過されました。

その後、安田生命に入社され、仕事と家庭が中心の生活が続きました。山登りから離れる時代もありましたが、50才頃から山登りを再開され、平成10年9月末には伊吹山で「百名山」完登を達成し、その後

も精力的に全国各地の山々で登頂記録を重ねられ、途中では大病で入院・手術をされ

D
W
V
・
O
B
会を代表し

同志社大学体育会

ワンダーフォーゲル部OB会
会長 野中義雄

三百名山の標高を合計い

たしますと、な
んと57万8千
267メートル
ルになります。

山踏破
京の男性

同着 栗原 孝
栗原 孝
てのり
栗原 孝
栗原 孝

（新潟県の荒沢岳は二百名山であるが三百名山に含まれていないのも含める）

30歳 日本三百名 東
同大ワングル部出身



同大ワングエル部出身 東京の男性



京都新聞に掲載された記事

一郎氏が登攀して話題になつてゐる世界最高峰ヒマラヤ(8848m)を65回、富士山なら153回登つたことになります。最も高い富士山(3776m)から最も低い比叡山(848m)また、北の端の利尻山から南の端の宮之浦岳までそれぞれに苦労された思い出と楽しかつた思い出があつたことでしょうか。

4月28日に299番目となる残雪時の岐阜県の猿が馬場山(1875m)にご一緒でき、楽しい思い出ができました。ありがとうございます。

今後とも、ぼちぼち山行されることを願っております。

藤田 郁男(昭44・経)

八重の桜



八重(綾瀬はるか)



襄(オダギリジョー)

お待ちかね
8月から舞台は京都!!
「銃」から「知識」へ

放送 NHK総合 毎週日曜日20時～
BSプレミアム 毎週日曜日18時～

八重の京都での活躍はいつから放送? 5月19日都内で開かれた東京校友会のイベント「同志社春の集い」ではこんな話題で持ち切りでした。それだけ同志社OB・OGがNHK大河ドラマ「八重の桜」の舞台が早く京都に、と心待ちにしていたのです。

その八重の京都生活のスタートともいえるべき「京都編」が8月11日放送の第32回「新天地を切り拓け」から始まります。いよいよ舞台は京都です。

同志社大学の現役学生にとって舞台がこれまでのように会津では馴染みにくいという声もOBの間でチラホラ。やはり京都でないと、ということでしょうか。今年も猛暑が予想される日本列島ですが、八重は新天地で武器を「銃」から「知識」に変え、新しい時代を開くことになります。

■8月4日(日) 第31回「離縁のわけ」

米沢の八重(綾瀬はるか)の元へ、尚之助(長谷川博己)から離縁状が届く。気丈に振る舞いながらも悲しみを抑えきれない八重。尚之助は斗南藩のために行った米取引に失敗し、取引先から訴えられ勾留されていた。しかし、八重への手紙にそのことは書かれていなかった。そして、八重たちの元に今度は京都から知らせが届く。それは、兄・覚馬(西島秀俊)が生きていて、八重たちを呼び寄せたがっているという内容。しかし、喜びも束の間、覚馬に内縁の妻と娘がいるという事を知り、八重は激怒する。

■8月11日(日) 第32回「新天地を切り拓け」

京都の覚馬(西島秀俊)が暮らす家で、八重(綾瀬はるか)、佐久(風吹ジュン)、みね(池田沙弥花)が同居する初めての朝。台所を手伝おうとする八重だが、時栄(谷村美月)の段取りの早さについて

で行けない。みねは会津に残った母・うら(長谷川京子)の事が忘れられず母屋を飛び出し泣き崩れる。しかし、みねのあとを追おうとした八重を覚馬は厳しく制止する。そして、八重に自らが取り組む京都再建の片腕になるよう命じる。

■8月18日(日) 第33回「新しい時を生きよ」

覚馬(西島秀俊)が仕えている榎村正直(高嶋政宏)が、業務妨害の容疑で捕まり東京に拘留された。覚馬は、榎村の後見人である木戸(及川光博)に取り成しを頼むため、八重を連れだつて東京へ向かう。覚馬の申し出は聞き入れられなかったが、時を同じくして起きた政府内の分裂によって榎村は釈放される。そして、勝(生瀬勝久)から居場所を聞いた八重は、尚之助(長谷川博己)の住む浅草へ行く。しかし、再会の場合にいたのはやつれきってすっかり生気をなくした伴侶の姿だった。

■8月25日(日) 第34回「帰ってきた男」

明治8年、襄(オダギリジョー)は覚馬(西島秀俊)や榎村(高嶋政宏)の援助を受け、京都に英学校を作ろうと動き出した。その頃八重(綾瀬はるか)は覚馬に促され、耶穌教(キリスト教)の勉強を始めていた。ある日、宣教師の家で八重は偶然、襄と出会う。八重が女紅場で働いていると知った襄は見学したいと強引に押し掛けてきた。その様子が戸惑う八重。一方、後に東大総長となる山川健次郎(勝地涼)は5年間の留学を経て、日本に帰ってきた。



京都府庁を訪れる覚馬(西島秀俊)を背負い、供をする八重(綾瀬はるか)
(第32回8月11日放送分から)

DAIKIN

世界中でつくります。なかった空気。できなかった空気。

国が違えば、暮らしが違えば、欲しい空気も違うはず。
ダイキンは最新の空調技術で、その全てに応えたい。



ダイキン工業株式会社

年次会 & 校友サークル

第百回東京

二九会を寿ぎて

滔滔と綾瀬はるかに桜八重、新島襄夫人八重さんのNHK大河ドラマ放映中のこの寿ぐべき時に、百回目の東京二九会が開催されたのは、なんと光栄なことであるか。

時恰も新緑の5月29日、帝国ホテルに会員37名、ゲスト6名計43名が集まった。ホテル側も「このお年でこれだけの人数の宴会は例がありません。」と驚くほどの盛会であった。

二九会は、校友会同期会の嚆矢として、校友会活動にも資するところが多かったが、さすがに80歳を越えたので、定例的な会合はこれにて打ち止めとし、今後は、もうすこし自由な形で続けようと言うことに衆議一決する。

会は常任幹事の挨拶、京都在住の同期生、藤田同志社大学教授の祝辞、木村ケイさんの乾杯の発声と形通り進み、後はゲストを交え盛んな交歓また余興も楽しみ、最後は恒

例の河合五朗氏のリードで校歌斉唱、チェアをひときわ高く締めくくった。

まだまだ米寿、卒寿と未達成の高峰が控えているが、それを目指してもう一踏ん張りという皆の心意気を感じながらの散会となる。

大江哲男(昭29・経)



ESSと

ESS東京OB会

同志社が1875年新島襄先生によって創立された際、それは英学校だったことはご存知の通りです。同志社と英語とは切っても切れない結びつきがあります。

English Speaking Society

は英語を、あるいは英語で話すことが目的ではなく英語を手段としてコミュニケーションをはかることに主眼があります。半世紀前のESSは会員数1500名近くを擁したこともありましたが、現在のESS部員数は200名。それでも今も学内最大のクラブです。カンバセーション、スピーチ、ディベート、ディスカッション、グループの5つのセクションから構成、それぞれが高い水準にあります。

ディスカッションではコンペティションで過去4年連続関西1位。

スピーチセクションは日本全国の各スピーコンテストで常に上位に入り総合成績では1位。

ディベートは近年同志社の独壇場になっていて日本のトップとしてディベートを牽引しています。

NAFA(全日本英語討論協会)ははじめ数ある大会でディベートセクションからは複数チームが参加する充実ぶりです。昨年は優勝3回、今年は

6月8〜9日に東洋大学で開催された大会では3位(写真)。Aチーム(大槻隼瞳君・伊藤洋介君)。

6月15〜16日に慶應湘南で開催された大会ではAチーム(大槻隼瞳君・豊岡良規君)が準優勝。大槻君が個人1位。日本全国から30チームも参加する大会ですから凄い事です。

タイトルは死刑の廃止でした。今回同志社東京校友会より文化系団体として初めてディベートチームに対して支援を実施。東京校友会からの激励は現役学生にとって大いに励みになったことと思います。同志社強し!

ESS東京OB会

近藤義彦(昭44・経)



IC・電子部品の調達から技術まで一括サポート致します!

明光電子一社で全ての部品がそろい、技術サポート、製造、検査までのプロセスを「早く」「広く」「深く」をキーワードに実践できる、電子の統合サービスが明光電子の強みです。

早いレスポンス — 「情報」と「モノ」を素早く正確に提供
広いネットワーク — 業界に広く通じているから何でも揃う
深いサポート — 確かな信頼があるからこそできる協力体制

早く
EARLY

広く
BROAD

深く
DEEP

明光電子 株式会社

神奈川県横浜市港北区新横浜 3-18-9 新横浜ICビル
FAX: 045-471-2377

E-mail: info@meicodenshi.com

045-471-2223

明光電子 |

検索

代表取締役 十川 正明
(昭和48年 機械工学科卒業 合気道部)

キャンパスフェスタ

今年は10月5日です!

同志社大学が全国7ヶ所で開催するキャンパスフェスタ、東京は10月5日(土)に秋葉原UDXで開催されます。

校友や一般の方向けのプログラムと、首都圏在住のご父母むけ、高校生対象の入試に関する説明会や個別相談を同一会場の複数の部屋で展開いたします。学長からの大学近況報告や教授の講演には毎年多くの校友が参加されています。今年の講演は佐伯順子氏(社会学部教授)、上田慧氏(商学部教授)の2名が予定されています。

この講演は、法人同志社の東京新島講座でもあります。

今年は、大学のプログラムを計画しています。4月に入社後、首都圏で勤務しはじめた後輩たちを校友会の新たな仲間として迎える機会です。

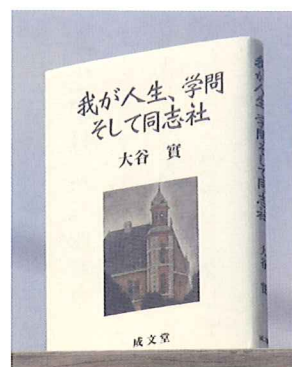
キャンパスフェスタの最後のプログラムは「交流交換会」(参加費3千円)。

新人校友や大学の皆さんと交流の時間をお楽しみください。



昨年度のキャンパスフェスタの様子

書評



我が人生、学問 そして同志社

大谷實著 成文堂

大谷総長の喜寿を記念して発行された回顧録である。

戦争により苦労された幼少期、法律家を志し教員となるまでの学生時代、犯罪被害者補償制度成立に尽力した研究者としての足跡、そして今日に至る大学運営という各章の内容が1つの線となつ

て記されている。東京校友会で行われた特別講演の内容をはじめとして、函館、栃木など全国各地での講演内容が複数収録さ

れているが、中でも多くを割かれているのは人生の目的についての解説だ。幸福追求のために必要な個人主義とは何か、本当の意味での個人主義には良心が必要であるという一説は折に触れて読み返したい。

植田圭一(平17・工)

すみれ亭

38会「すみれ亭句会の秀句」

お盆にはこんなにホームが広くなる

木村 晶子

ある朝の突然のホームの変化。この駅のホームはこんなに広がったんだ。そういえば今日からはお盆休みで、隣のホームもよく見通せる。みんな田舎に帰ってしまつたのかなア。子供のような眼で見たフレッシュな発見が口語俳句に相應しい。(評・あかぎ倦鳥)

化粧品・健康食品部門 No.1

時代を先取りした研究、企画開発により生み出される高品質・低価格の商品群と、お客様にご満足いただける最高レベルのサービスを提供し続けるDHC。
“お客様からの評価”ともいえる数々の栄誉を原動力にして、さらなる進化をめざします。※2012年1月1日 日本流通産業新聞 通販・通数・EC売上高ランキング

株式会社DHC

〒106-8571 東京都港区南麻布2-7-1 代表取締役会長兼CEO 吉田嘉明 (昭和40年 文学部英文文学科卒)



<http://www.dhc.co.jp>

佐々木實穂子展のご案内

昭和7年(1932)に設立

され、昭和8年3月に第1回
展覧会を開いた画壇の名門・

旺玄会主催の第79回旺玄展

(5月22日~30日 東京都美術館)

にて佐々木實穂子さん(「校

友訪問」の項参照)の作品

「signal」が最優秀作

品として「文部科学大臣賞」

を受賞しました。

既に展覧会は終了しまし

が、再び鑑賞できる機会が出

来ましたのでご案内します。

●日時

平成25年10月18日(金)~30日(水)
※月曜休館

●時間

11時~18時(最終日は16時まで)

●場所

Gallery 睦

千葉市中央区弁天3-8-11

電話 043-287-2355

JR千葉駅またはモノレール

千葉公園駅、徒歩7分



第79回旺玄展 文部科学大臣賞受賞作品 遠い日 (signal)

編集後記

「2013春の集い」も大成功であった。当会最大のイベントは会員が実行委員となつて長期間にわたつて準備を行う。業務ごとの各グループの報告は準備段階の様子もからのご苦労も忍ばれます。2014年度への引継ぎもこめて4ページにわたりご紹介する。

旺玄展「文部科学大臣賞」受賞の佐々木實穂子さん(昭41・文)は主婦として子育てをしながら絵画を習いはじめ、自宅をアトリエとして生活空間のなかで絵を描き続けてきた。自然にわき上がった思いを絵にしてきたそうです。佐々木さんは「東京41会」でも積極的に活動されている。

70歳で日本300名山を踏破した男がいる。北濃登美男さん(昭41・法)。体育会ワンダーフォーゲル部OBにして我が東京校友会の代表幹事として激務をこなしている。「80歳・エベレスト大名登山」とは対照的にこつこつと山を歩き続ける姿も「冒険家大賞」にふさわしく思う。

打算的で利己主義がまかり通るご時勢に、公私ともに活躍するお二人に接してみると、手を伸ばせば届きそうなどところから笑顔で「早く登っておいでよ」と手招きされて、しかし届かない距離感に焦りを感じる。お二人を見失わないように追いかけたと思った。

93号(予定)

発行 2013年10月28日(月)
原稿〆切 2013年8月20日
情報提供は同封のアンケート用紙でFAXまたはHPからメールでお寄せ願います。採用させていただく場合は原則としてメールでの入稿をお願いします。

DOSHISHA TOKYO JOURNAL

2013.JUL NO.92

同志社東京校友会

〒100-0001

東京都千代田区大手町2-6-2

日本ビルデスカット

電話 03-5704-9660

FAX 03-5704-9661

発行人 児玉正之

編集人 藤田昇良

デザイン デザインスタジオ クリエンス

<http://www.doshisha-tokyo.alumni.jp>HP会員ページ
ログイン情報ID =doshisha
PASS=1875

DAIKIN

世界中でつくります。なかった空気。できなかった空気。

国が違えば、暮らしが違えば、欲しい空気も違うはず。
ダイキンは最新の空調技術で、その全てに応えたい。

ダイキン工業株式会社